

2 吹田市の将来の都市像と公共交通の課題

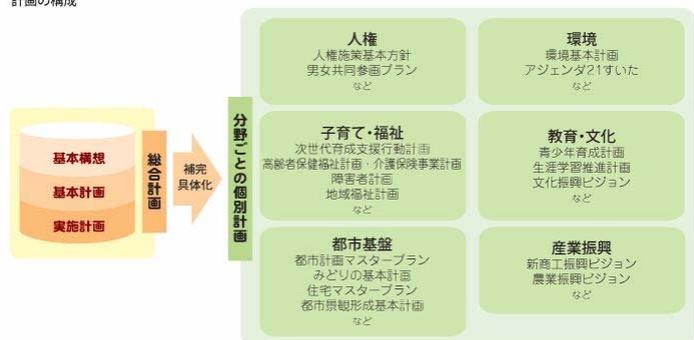
(1) 上位計画による将来の都市像

■吹田市第3次総合計画

(平成18年度(2006)～32年度(2020))

市のこれからのあるべき姿を描いたもので、総合的・計画的にまちづくりを進めていく上での基本的な方針となるものである。

計画の構成



<吹田市の特性>

1. 交通の利便性
2. 充実した文化・学術・研究環境
3. 暮らしを支える生活関連施設
4. 複合型都市
5. 地域ごとに異なる特色

<吹田市を取り巻く動向と課題>

1. 少子・高齢化の進行
2. 地域経済の変化
3. 環境に対する意識の高まり
4. 安全に対する意識の高まり
5. 情報化の進展
6. 地方分権の進展
7. 地球規模での交流の拡大

将来像：

人が輝き、感動あふれる美しい都市 **まち** すいた

<施策の大綱>

- 1 すべての人がいきいき輝くまちづくり
- 2 市民自治が育む自立のまちづくり
- 3 健康で安心して暮らせるまちづくり
- 4 個性がひかる学びと文化創造のまちづくり
- 5 環境を守り育てるまちづくり
- 6 安全で魅力的なまちづくり
- 7 活力あふれにぎわいのあるまちづくり

<地域区分>



<基本構想－都市空間（抜粋）>

- 1 地域特性を生かした多様な都市空間の形成
 - ・それぞれの地域における特性を踏まえながら、居住機能を支える良好な環境を形成
 - ・市民のさまざまなニーズに対応
- 2 地域ごとの特徴のある拠点市街地の形成
 - ・拠点市街地：鉄道駅周辺（都市全体の中心的な機能や地域の生活を支える機能が集積）、高度な学術・研究機関や広域的な文化・レクリエーション機能が集積する市街地
 - ・江坂駅周辺、JR吹田駅周辺、阪急吹田駅周辺及び万博公園周辺を都市拠点として、またその他の鉄道駅周辺を地域拠点
- 3 都市機能を高める地域間及び都市間の連携
 - ・拠点市街地を結び環境に配慮した交通のネットワークの形成
 - ・周辺都市との結びつきを強め、広域的な都市間の連携をめざす
- 4 人と自然の共生空間の形成
 - ・緑の拠点と緑の骨格で「緑のネットワーク」を形成

<基本計画－部門別計画（抜粋）>

6 安全で魅力的なまちづくり

- 1 安全なまちづくり
- 2 暮らしや都市活動を支える基盤づくり
- 3 良好な住宅・住環境づくり
- 4 景観に配慮したまちづくり

基本方向	計画
<p>4 歩行者や自転車が優先される交通環境の整備や公共交通の利便性の向上を行い、過度に自動車に依存しない社会の実現をめざします。</p>	<p>4 自動車に過度に依存しない交通環境づくり</p> <p>(1) 歩行者・自転車優先のまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩道の整備や歩車分離信号の設置 ・自転車歩行者道の整備やネットワーク化 ・駅周辺での自転車駐車場整備 ・商業集積地での自転車対策 <p>(2) 総合交通体系の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通需要マネジメント施策など新たな交通施策の実施 ・交通結節点の利便性向上 ・公共交通の利用促進 ・自動車交通量の抑制 ・交通渋滞や環境問題の解消 ・交通利便性の向上に資する移手段の検討

<都市計画の主要課題>

1. 全ての人にとって使いやすく快適に過ごせる都市空間の形成
2. 都市の安全性の向上と暮らしの安心の確保
3. 住宅・住環境の保全と更新
4. 都市の魅力向上と産業支援による都市活力の増進
5. 都市計画制度等の適切な運用と市民等によるまちづくりへの支援

<まちづくりの基本理念>

1 暮らしに安心と快適性をもたらすまちづくり

- (1) 人にやさしい歩いて暮らせるまちづくり
- (2) 災害と犯罪に強く安心・安全で健康に暮らせるまちづくり
- (3) 多様なライフスタイルを支える環境づくり
- (4) 都市活動を支える都市基盤の充実と計画的土地利用の誘導

2 誇りと愛着の持てる定住のまちづくり

- (1) 個性豊かな地域づくり
- (2) 地球環境の保全と環境への負荷の小さいライフスタイルへの支援
- (3) 吹田らしい特徴のある文化都市づくり
- (4) 多様な主体の協働によるまちづくり

<まちづくりの方針－都市施設の整備方針－交通施設の整備方針（抜粋）>

(3) 公共施設等の整備

①鉄道

- ・ アクセス道路や駅周辺市街地の整備により各駅の利便性の向上
- ・ 大阪外環状線鉄道事業を促進、**駅施設などの充実**
- ・ 鉄道をはさんで市街地や道路交通が分断されている地域においては解消の方策を研究

②バス

- ・ 路線にかかる道路の拡充と関連施設整備、**バス優先の交通規制による定時性の確保**
- ・ 東西方向の路線の拡充などにより、**市域内の環状ネットワークの形成**
- ・ バス路線のネットワークのあり方を研究
- ・ ゾーンバス制や乗り換え時の同一料金制、バリアフリー車両の導入
- ・ 地域や路線ごとの実状に応じた**コミュニティバスやデマンドバスの導入**など、公的な支援のあり方について研究

③その他の公共交通機関等

- ・ **レンタサイクル**などの導入
- ・ **乗り合いタクシー、レンタカー**の活用
- ・ LRTなどの公共交通機関や自動車の共同利用システムの手法について研究

(4) ターミナル施設の整備

①駅前広場等

- ・ 大阪外環状線鉄道西吹田駅（仮称）においては、交通結節機能の充実
- ・ 駅へのアクセス手段や駅前市街地の実状に応じた**交通結節機能の充実**
- ・ **ターミナルのバリアフリー化**や都市景観にも配慮した空間整備

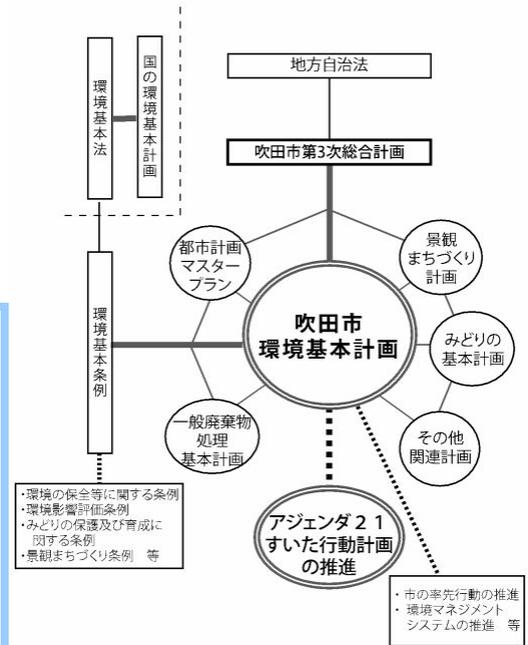
■吹田市第2次環境基本計画

(平成21年度(2009)～30年度(2018))

「吹田市環境基本条例」に基づき、環境の保全と創造に関する施策について、総合的・計画的に推進する役割を担うものとして、平成21年3月に策定した。

<基本理念>

- (1) 安全で健康かつ快適な生活を営むことのできる良好な環境を確保する
 - ・ 大気、水、土壌等の身近な環境の保全に取り組む
 - ・ 生物多様性の保全に配慮しつつ、自然との共生を図る
 - ・ 快適な都市環境の創造を図る
- (2) 資源が循環する地球にやさしいまちづくりを進める
- (3) 市民、事業者、行政の協働で、持続可能な社会づくりを進める



望ましい環境像：

「みどりと水 光と風 地域をはぐくみ地球をまもる 環境世界都市すいた」

<目標と施策の柱>

目 標	施策の柱
1 エネルギーを適正に利用できる低炭素社会への転換	〔1〕地球環境に配慮した行動の普及促進 〔2〕省エネルギーの推進、自然エネルギーの活用
2 資源を有効に利用する社会づくり	〔1〕廃棄物の減量・リサイクルの推進 〔2〕水資源の有効利用
I 環境の保全・創造	
3 健康で安全な生活環境の保全	〔1〕環境汚染防止対策の推進（事業活動に伴う公害防止対策、自動車公害防止対策、有害化学物質等による環境汚染の未然防止、公害健康被害者の救済） 〔2〕快適な生活環境の確保（環境美化、日照電波障害、ヒートアイランド対策）
4 人と自然とが共生する良好な環境の確保	〔1〕自然とのふれあい空間の保全・創造（生き物の生態空間の確保、みどりと水辺に親しめる環境の整備） 〔2〕農地の保全と活用
5 快適な都市環境の創造	〔1〕景観に配慮したまちづくり 〔2〕歴史・文化資源の保存と活用 〔3〕快適な交通環境づくり 〔4〕環境に配慮した開発事業の誘導
II 連携・協働による取組の推進	〔1〕環境に係る情報の収集・提供 〔2〕市民活動の支援・促進 〔3〕市民、事業者、行政の協働 〔4〕大学等との連携
III 環境学習・環境教育の推進	〔1〕環境保全意識の啓発 〔2〕学習機会の提供 〔3〕実践活動を推進する人材の育成

→ 次頁へ

< I-1-(1) 地球環境に配慮した行動の普及促進 >

○車依存生活からの脱却を目指し、自転車利用や歩いて暮らせるまちづくりを推進します。

代表指標	現況値 (平成18年度(2006))	目標値 (平成32年度(2020))
吹田市域の年間温室効果ガス排出量	2,064千t-CO2	1,500千t-CO2以下 (平成2年度(1990) : 1,953千t-CO2 比で25%以上削減)
市民1人当たりの年間温室効果ガス排出量	5.88t-CO2	4.28t-CO2以下 (平成2年度(1990) : 5.71t-CO2 比で25%以上削減)

目 標	施策の柱
1 エネルギーを適正に利用できる低炭素社会への転換	(1) 地球環境に配慮した行動の普及促進 (2) 省エネルギーの推進、自然エネルギーの活用
2 資源を有効に利用する社会づくり	(1) 廃棄物の減量・リサイクルの推進 (2) 水資源の有効利用
I 環境の保全・創造	
3 健康で安全な生活環境の保全	(1) 環境汚染防止対策の推進（事業活動に伴う公害防止対策、自動車公害防止対策、有害化学物質等による環境汚染の未然防止、公害健康被害者の救済） (2) 快適な生活環境の確保（環境美化、日照電波障害、ヒートアイランド対策）
4 人と自然とが共生する良好な環境の確保	(1) 自然とのふれあい空間の保全・創造（生き物の生息空間の確保、みどりと水辺に親しめる環境の整備） (2) 農地の保全と活用
5 快適な都市環境の創造	(1) 景観に配慮したまちづくり (2) 歴史・文化資源の保存と活用 (3) 快適な交通環境づくり (4) 環境に配慮した開発事業の誘導
II 連携・協働による取組の推進	(1) 環境に係る情報の収集・提供 (2) 市民活動の支援・促進 (3) 市民、事業者、行政の協働 (4) 大学等との連携
III 環境学習・環境教育の推進	(1) 環境保全意識の啓発 (2) 学習機会の提供 (3) 実践活動を推進する人材の育成

< I-3-（1）環境汚染防止対策の推進 >

○公共交通の利用、エコドライブなど環境に配慮した交通のあり方について普及啓発を促進します。

代表指標	現況値 (平成 19 年度(2007))	目標値 (平成 25 年度(2013))
環境目標値達成率	25.0% (二酸化炭素) 88.5% (河川BOD) 64.0% (一般環境騒音)	100%

※ 二酸化炭素については、市独自の環境目標値（1時間の平均値 0.04ppm 以下）を定めるものとする。

※ 目標値は、第3次総合計画に掲げる目標値（目標達成年度は第3次総合計画の目標年度）

< I-5-（3）快適な交通環境づくり >

○交通バリアフリー基本構想に基づき、駅舎、移動経路などのバリアフリー化を推進します。

○違法駐車や交通安全に関わる啓発を行い、交通マナーの向上を図ります。

○公共交通の利用促進に向け、コミュニティバスの運行実験を行うなど、車から公共交通への転換可能性について調査します。

○自転車駐車場の整備やレンタサイクル事業などにより、車利用から自転車利用への転換を促進します。

< 重点プロジェクト（抜粋） >

< 交通環境対策 >

◇低公害車・低燃費車の普及

◇楽しみながら車依存生活から脱却する「市民が歩きたくなるまちづくり」の推進

◇自転車駐車場の更なる整備

◇レンタサイクル事業の更なる推進

(2) 地域公共交通の課題整理

吹田市の現況及び上位計画による将来の都市像から抽出される課題として、以下が挙げられる。

課題1：利用者ニーズに十分対応していない公共交通体系

将来人口の減少や少子高齢化の進行は、公共交通の利用者の減少に拍車をかける可能性があり、公共交通網を維持していくためには大きな課題である。

一方、千里山・佐井寺地域、山田・千里丘地域では、鉄道・モノレール・路線バスにアクセスできない公共交通空白地が存在し、市民の移動手段が十分に確保できておらず潜在需要があると想定されるため、需給バランスを勘案しつつ、移動手段の確保が必要である。

また、住宅地やニュータウン（JR以南地域、片山・岸部地域、千里ニュータウン地域）で急速に進む高齢化に伴う交通利用形態の変化、開発地による需要の変化などを踏まえて、利用ニーズに応じた公共交通のサービス提供が必要である。

課題2：公共交通利用環境の整備不足

利用者が高齢化するなど利用者ニーズにあわせたバス停施設の改善、駅のバリアフリー化などに十分対応できていないことや、乗り換えが快適に円滑にできる交通結節点機能の確保など利用者の環境整備が未だ不十分である。

また、路線バスは、渋滞の発生など地域の交通状況に大きく影響され、信頼性が低下することから、渋滞ポイントの迂回など定時性を高め、安心して快適に利用できる公共交通の確保が必要である。

課題3：公共交通機関へのアクセス、目的地へのアクセスが不便

吹田市特有の丘陵地形により、バス停や駅への徒歩でのアクセスが困難な地域が多く、高齢化の進展で、より顕在化することが懸念される。

また、吹田市からの移動が多い大阪市をはじめとする隣接市へのアクセス強化と目的地への効率的な移動ができる公共交通網の整備と、吹田市の学術・文化・レクリエーション施設などへの市域外からのアクセス向上により、市内外交通の利便性向上が求められる。

課題4：公共交通を身近に感じる情報提供が不十分

公共交通を利用してもらうためには、目的地までの公共交通を乗り継いでいく路線や時刻などの情報が必要である。しかし、利用者の視点に立った公共交通の情報提供がなされておらず、利用しにくい状況である。また、路線図などの配布場所も限られており、市民が身近に公共交通の情報を入手できる環境が整っていない状況である。

課題5：地球にやさしい交通体系が求められている

近年、地球環境に対する問題意識が高まり、吹田市でも自動車に過度に依存しない交通環境づくりを目指している。公共交通利用促進を目指して、交通事業者も地域での啓発活動の必要性を認識しているが、吹田市域での啓発活動の場が少なく、市民の身近な場所で啓発活動ができていない。

表 2-1 地域別課題のまとめ

	利用者・土地利用の課題	公共交通の課題		
		公共交通空白地	路線バス	鉄道・モノレール
市全域	<ul style="list-style-type: none"> 吹田市の将来人口は減少傾向。 高齢者人口割合は2035年には30%を越え、2010年の約1.5倍となる。 大阪市へのトリップが多い。 住宅都市として発展してきたが、更新時期を迎えるマンションなどが多い。 公共施設、病院などが点在している。 	<ul style="list-style-type: none"> 千里山・佐井寺地域、山田・千里丘地域で大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 待合スペースがない、バス停が半数以上。また、ベンチや上屋が設置されていないバス停が半数以上。 主要なバス停で運行情報が点字・音声でほとんど表示されていない。 路線バスの乗降車人員が減少傾向。 	<ul style="list-style-type: none"> 3分の2の駅でバスへの乗り換え移動経路で、視覚誘導ブロックの連続、あるいは段差解消に課題がある。 半数の駅でバスへの乗り換え移動経路に屋根が設置されておらず、また、乗り換え案内がない。

地域	総合計画 ◇地域別計画の基本方向◇	利用者・土地利用の課題	公共交通の課題	関連計画・開発予定
1 JR以南地域	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ活動と連携した住みよいまちづくり 安心して暮らせるまちづくり 河川をふれあいの場として活用 防災性の向上、緑化の推進 環境と調和した工業の振興 	<ul style="list-style-type: none"> 中心部に高齢者人口の多い町丁がまとまっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 正雀バス停で阪急正雀駅とのアクセスが悪い。 	<ul style="list-style-type: none"> (仮称)西吹田駅前整備 バリアフリー基本構想(吹田・豊津地区)
2 岸部地域 片山・	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ活動と連携した住みよいまちづくり 安心して暮らせるまちづくり 防災性の向上、緑化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設や病院などの主要施設が多く立地している。 	<ul style="list-style-type: none"> 特に大きな課題は見あたらない。 	<ul style="list-style-type: none"> 吹田操車場跡地のまちづくり バリアフリー基本構想(岸部地区、吹田・豊津地区、千里山・関大前地区)
3 南吹田地域 豊津・江坂・	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ活動と連携した住みよいまちづくり 安心して暮らせるまちづくり 河川をふれあいの場として活用 緑化の推進 環境と調和した工業の振興 	<ul style="list-style-type: none"> 江坂、豊津、垂水地区で高齢者人口の多い町丁がまとまっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 特に大きな課題は見あたらない。 	<ul style="list-style-type: none"> 南吹田地域のまちづくり基本計画 (仮称)西吹田駅前整備 バリアフリー基本構想(江坂地区、吹田・豊津地区)
4 佐井寺地域 千里山・	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ活動と連携した住みよいまちづくり 安心して暮らせるまちづくり 道路整備に努める 	<ul style="list-style-type: none"> 春日地区は若年ファミリー層の人口急増。 	<ul style="list-style-type: none"> 春日地区、佐井寺地区に公共交通空白地がまとまっている。 路線バスの運行が少ない。 不満度が高い 	<ul style="list-style-type: none"> 千里山駅周辺整備事業 バリアフリー基本構想(千里山・関大前地区、南千里地区)
5 千里丘地域 山田・	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ活動と連携した住みよいまちづくり 安心して暮らせるまちづくり 道路整備に努める 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の人口が全体的に多い。 山田地区に更新時期を迎える分譲マンション多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 千里丘・長野地区を中心に公共交通空白地がある。(現在、コミュニティバス試験運行) 不満度が高い 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日放送跡地 日生跡地 コミュニティバス試験運行 バリアフリー基本構想(山田地区、万博公園周辺地区)
6 タウンニュー地域 千里ニュー	<ul style="list-style-type: none"> 周辺環境と調和した良好な住環境の保全と育成 緑豊かなまちづくり 多様な世帯が住めるまちづくり ふれあいのあるまちづくり 安心して暮らせるまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 住宅地を中心に高齢者の人口が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 特に大きな課題は見あたらない。 	<ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウン再生事業 バリアフリー基本構想(山田地区、桃山台地区、南千里地区、北千里地区)
7 万博・阪大地域	<ul style="list-style-type: none"> 住み、学び、働く、訪れる人のにぎわう、学びと文化創造のまちづくり レクリエーションと憩いの拠点として、訪れる人の顔が輝く交流広場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 居住者人口はほとんどなし。 学術、研究、レクリエーション施設が多く立地している。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本庭園バス停でモノレール公園東口駅とのアクセスが悪い。 	<ul style="list-style-type: none"> エキスポランド跡地 バリアフリー基本構想(万博公園周辺地区)

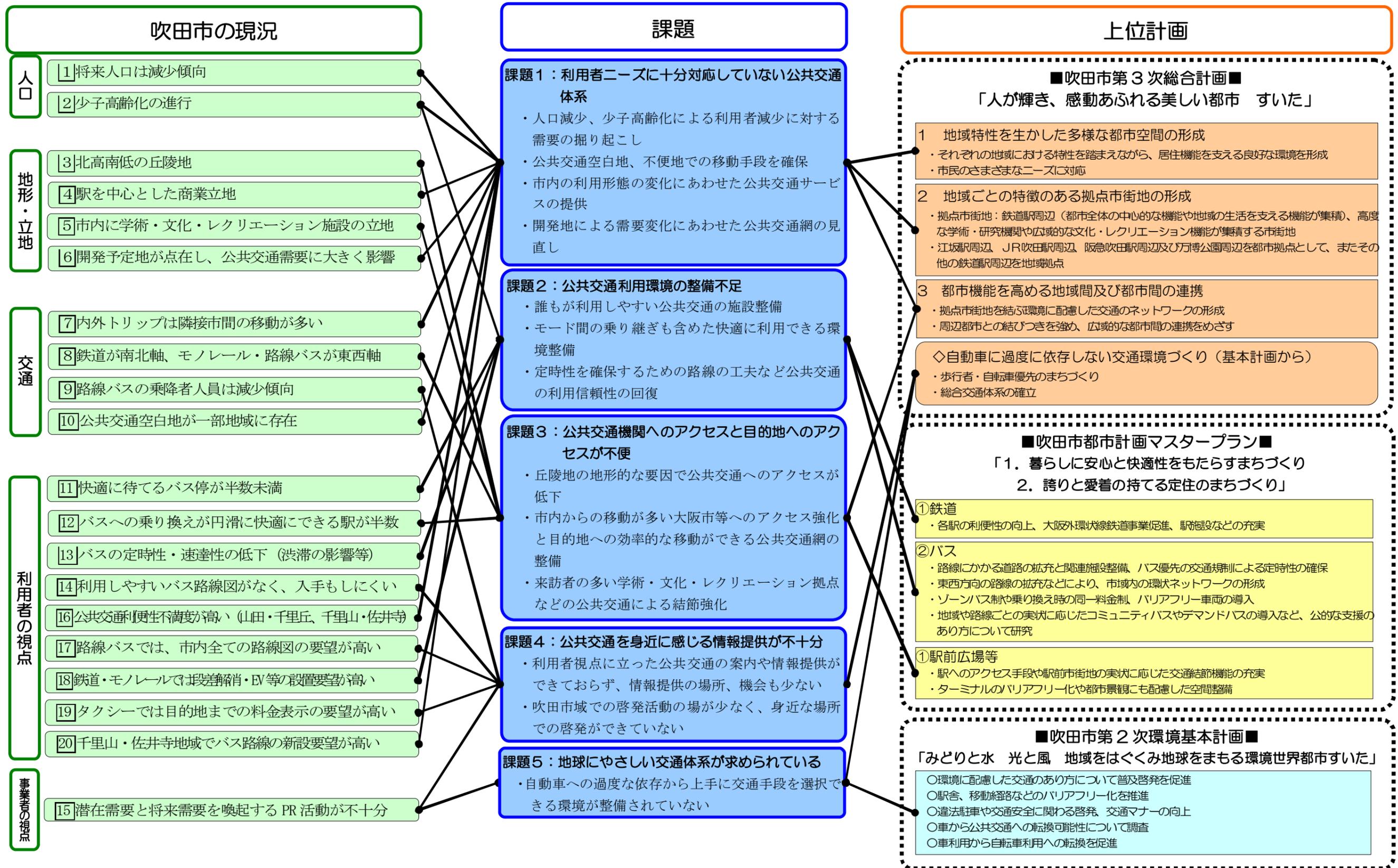


図 2-1 課題の抽出